

城山エコミュージアム通信

2013.3.15 第15号



エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

地域の昔を語り継ぐ

活動レポート



“出前・昔の写真館”を開催、初回は、若葉台地区で



昭和 39 年谷津に家屋建設開始



昭和 41 年頃谷津の雪景色



昔を思い出しながら会話が弾みました



昭和 49 頃
久保沢から若葉台へ上る坂



市立広陵小学校開校



2月5日（火）城山地区シニアクラブ連合会のご協力を得て、初めて「出前・昔の写真館」を開催、若葉台クラブにお邪魔しました。若葉台は城山地区内でも新興住宅地として山ごと開発され、様々な場所から移り住んで来られた方が多い地域です。

今回の語り手は、幼い頃から若葉台を裏山と眺めて育った樋口孝治さん。若葉台地区開発前は今以上に自然豊かで里山として農村生活の基盤を支える山だったこと、その後開発の経緯と造成中の話、最後に完成後の話まで、当時の様子を昔の写真を映写しながら説明しました。参加者からは、造成前にあった地名を現在ある公園名に残している事などを説明すると「なるほど」と声があがりました。

その後、若葉台地区以外の写真等持参したパネルを各班に回して、班ごとに話し合い、最後に感想やご意見等を発表しました。小倉の渡船の写真を見て先人の生活が偲ばれたこと、ご祝儀の写真を見て自分も自宅で同じように結婚式を行って嫁いできた話等が出ました。特に造成前にゴルフ場開発計画があった話について驚かれた方が多く、「住宅地として開発されたおかげで、皆さんと出会えてよかった」等話題で盛り上がりました。当日は、40名を超える方が参加され、「ぜひまた開催してほしい」との声を頂く等、大盛況のうちに終了することができました。

この活動は今後も継続し、お年寄りから子ども達まで、地域ごとに幅広く開催してゆきたいと考えています。皆様のお住まいの地域から、お誘い頂ければ幸いです。（当日の詳細内容は、2頁へ）



今回のトピック

大盛況！出前・昔の写真館開催の結果レポート
大好評連載！城山検定 今回は『節分祭』
城山探訪『本沢梅園』のご紹介
春の里山自然観察会開催のお知らせ等

城山探訪



ただいま見ごろ！本沢梅園



写真でふり返る、昔の若葉台

～昔の写真でふりかえる若葉台開発前から現在まで（ダイジェスト版）～



開発前



工事直前の久保沢谷戸

開発前の若葉台は、農村を支える豊かな里山で、さまざまな動植物がすんでいました。



としいやま
砥石山下の丸木橋（左図）
ドジョウ捕りする子ども達



なつかしい！
故郷でもやったなあ



現在の場所にもないものも写真で紹介



とうおう
塔王様



はるな
標名神社



おくり
小栗の滝

小栗は公園の名前に残ってるね



現・若葉台1丁目への登り口
養蚕用のエガ（かに蚕をのせる
柵）を洗っている様子

よく洗わないと、お蚕
さんが病気になってし
まった記憶があります



開発中

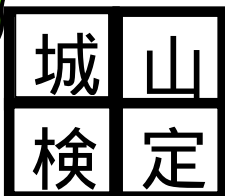


昭和49年頃の久保沢谷戸



昭和49年造成中の若葉台

知ってナットク！
しろやま



問題 節分の行事について

今回は、×クイズです。
城山地区で行われていた節分の行事について、
本当かウソか考えてみてください。

メザシの頭をヒラギの先に刺して、
「へびやムカデの口焼き申せ」と唱える。

近所の神社に行き、境内から社（やしろ）
の中に向けて、豆まきをする。

その家の主（あるじ）、男性が豆をまく。



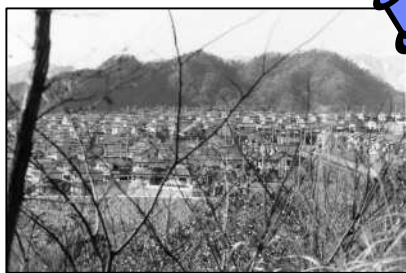
節分祭当日の川尻八幡宮

開発後



完成した若葉台から橋本方面を望む

私達が住む地域にこんな歴史があったことがわかってとてもよかった！



若葉台と城山を望む

皆さんから頂いた感想等

転居したばかりの頃は、家の目の前から城山が見えた。公園の地名が、昔の地名とは知らなかった。懐かしい写真に話が弾んだ。また次回もやってほしい等。

若葉台地区の皆さまへ

皆さんが、引っ越しされたばかりの頃の若葉台のお写真を、募集しています。若葉台の歴史を次世代へつなぐため、お持ちの方は、ぜひご協力をお待ちしています。



盛り上がった会場内

若葉台の皆さん、ご協力ありがとうございました！

川尻八幡宮の節分祭



当日の様子

川尻八幡宮では毎年、節分の日の夕方5時から、神殿での祭儀の後、福男による豆まきが行われ、お菓子や福引きがまかれます。これは、38年前に就任された安西宮司さんが、修学された鎌倉の鶴岡八幡宮にならい35年程前から始めたものです。毎年、子ども達は楽しみにしているようですが、今年は特に日曜日だったこともあり、300名近い参拝者でにぎわいました。(KE)



もらったお菓子など

検定の解説

は、中沢地区で行われており、魔よけの為に行ったと思われます。おまじないを唱えた後、「ペッペ」とつばをかけるまねをしてから土に刺します。メザシの頭は、「すぐに猫に食べられてしまうんだ」と私の母も話していました。

は、福男が拝殿から蒔く豆まきに対して、反対のようですが、城山地区では一般的な風習でした。今年も、豆まきに来られている男性の方がおり、話を伺いましたが、やはり「なぜそのように行うかは知らないが、親にならい毎年行っている。家の中で神棚のある場所へまいた後、神社に来てまく。農家なので、豊作を願って」とのことでした。

そもそもは、 のように、一家の主が、その家の家内安全、邪気退散を願って行う大切な行事だったようです。



答え：すべて（本当）です。



以上の点を考えると、 の本殿の中に向かってまくのは、自宅の中だけでなく、宮司不在の神社にあって、大切な氏神さまも鬼から守るという意味があったのではないのでしょうか？取材を通して、何となく、豆まきに来られた方の自信に満ちた姿から、そう感じられました。(KE)



城山探訪

しろやま見どころ紹介
本沢梅園と城山湖（本沢ダム）



満開の本沢梅園の様子

満開の本沢梅園の様子
たりのよい南東向きの斜面となったところに、後に1千本ほどの梅が植栽されました。年を経て、現在は見事な花をつける梅園として人々を楽しませる場所となりました。(MY)
梅園の素敵なお写真は、川尻財産区よりお借りしました。ありがとうございました。

3月に入り、本沢梅園の花の見ごろの季節を迎えます。南東に面した斜面一面に広がる花々はとても見事なもので、見ごろの頃、今年は「本沢梅園まつり」も開かれるそうです。多くの方が見物に訪れます。6月には梅もぎが一般にも開放され楽しめます。植えられている梅の木は約千本、品種は「白加賀」が多く、その実は特に梅酒に適しています。

ところで本沢梅園と城山湖（本沢ダム）とのいきさつをご存知でしょうか。梅園が現在ある場所は以前は谷間となっていて、龍籠山周辺から切り倒した材木を下ろすところとして使われていて一般人は立ち入れられないような場所でした。

1965年（昭和40年）に城山湖（本沢ダム）ができ、地下発電所建設の残土が持ち込まれ、その谷は埋もれてしまいました。

Information

城山エコミュージアムを育てる会の活動を紹介

ちいさな春、見つけませんか？

春の里山 自然観察会

～谷津田とその周辺の春を探して～

開催日時：平成25年3月24日（日）午前10時から11時30分

会場：城山自然の家（現地集合・解散）

参加費無料

内容：春の里山風景を楽しみながら、身近な自然観察を行います。

対象：城山地区・里山の自然に興味のある方（小学生以下は、保護者同伴）

定員：30名（申込順）

持ち物：汚れても良い服装、長靴など（あれば双眼鏡、ルーペ）



申込期間：平成25年3月1日（金）～3月21日（木）
※平日午前8時30分～午後5時迄（土日・祝日・夜間を除く）

会場には駐車場
がありません。
ご注意ください。

問合せ：相模原市教育委員会生涯学習課城山教育班 TEL 042(783)8184【直通】



一緒に活動しませんか？

城山エコミュージアムを育てる会のメンバーは、地域の昔の写真、古道、自然、通信づくりなど、それぞれの興味にあわせて活動しています。高校生以上の方ならどなたでも参加可能！まずは見学してみませんか？詳しくは右記まで。ご連絡をお待ちしています。

企画/作成：城山エコミュージアムを育てる会

発行：相模原市教育委員会生涯学習課城山教育班

問い合わせ：TEL：042-783-8184【直通】

FAX：042-782-1290

この通信のバックナンバーは、ホームページ（パソコン）からもダウンロードできます。携帯でも活動内容をご覧いただけます。

